

第 5 回 : 国際耕種と NGO—ジンバブエでの取り組み ～その 2

前号で、我々がジンバブエで独自に実施しているプロジェクト形成調査において、将来一緒にプロジェクトを行っていく連携対象とした現地 NGO のひとつを紹介したが、引き続きその他の NGO を紹介する。

「Zimbabwe Women's Bureau (以下 ZWB)」

連携の相手として選んだ理由は、組織が大きくしっかりしている、プロジェクト内容が住民参加を重視している、相手側にやる気がみられる、等々。特に、前号で紹介した ZWP と比べて組織の規模が大きく、全国に 13 のプロジェクトサイトを乾燥・半乾燥の農村地域のみならず都市近郊などにも散らばって持っているという活動の幅の広さも選んだ理由のひとつである。

地域住民の社会基盤の改善、そして持続的な地域開発を目的として、農村部及び都市周辺部の女性及びその家族を対象とした研修活動、情報提供、資金援助等を実施する。具体的には基本的な教育の供与、ジェンダー、女性の人権、保健衛生、HIV/AIDS、土地所有と利用、貧困の緩和、自然資源の有効活用、ビジネスマネージメントにおけるトレーニングやローンの実施に取り組み、利益を生み出す機会をもてるようにすることが活動の目的である。

設立は、1978 年で都市部における学生や教授達による女性の地位を確立・向上しようとする運動が契機となって始まった。そのため現場で生まれ育った NGO よりも、かえって地域住民とのつながりを保つことに極めてより細やかな配慮を払っている。各現場を統括する Field Worker と呼ばれるスタッフは、都市部から派遣された人材ではなく、地域の事情をよく把握している地元の住民の中から選ばれている女性である。彼らは、ZWB の本部と地元農家・住民との橋渡しの役割をする。活動内容も地域の実情に沿ったものであるため、地域住民によって容易に受け入れられている。

実際の活動として、全国に 10 数のプロジェクトサイトを持ち、農民の交換や視察、ソーラークッカーの普及や Homestead Development (各戸の敷地内での生活向上・保健衛生改善をねらいとして、雨水の集水やキッチンガーデン、小家畜の飼育等を行う)、を行うとともに、各サイトのグループメンバーが活動 (養蜂、手工芸、製陶、畜産、植林、クッキングオイルの生産、稲作、有機農法の実践、等々) をするために活動センターの建設や資機材の供与及び技術支援を行うが、基本的にメンバーの活動の自主性を重んじている。



Homestead Development の様子—集水のためエッジを切り、スイカなどを植えて



養蜂箱—蜂蜜を絞る、市場へ出荷する



在来種の果樹—果肉から酒を造ったり、種子からナッツを採る



プロジェクトサイトの苗圃—在来樹種を主とする苗を生産し、配布・販売する